区報ふじきよう　オリンピック・パラリンピック こども新聞　平成30年9月1日

オリンピック競技とハチミツのなぞ？

古くからある日本の養蜂（ようほう）の歴史

7月24日、ぼくたちは総理大臣公邸（そうりだいじんこうてい）で実際に養蜂を体験しました。養蜂とは、人がはちに（木の）箱の中に巣を作ってもらって、ハチミツをつくる農業のようなものです。なぜぼくたちが養蜂に興味を持ったかというと、ある競技でハチミツが使われているし、養蜂は日本の昔から受けつがれてきた伝統的（でんとうてき）なものだからです。はちはとってもはたらきものです。なのでぼくもはちみたいにはたらきものになりたいです。（小5／R・Y記者）

ハチよけの帽子をかぶってお話を聞きました

滑り止め

オリンピックを取材しているのになぜハチミツを取材したのか不思議（ふしぎ）に思いました。どのような関係があるのだろうか。答えは「体操」競技の一部にありました。「ひねり王子」と呼ばれる白井健三（しらいけんぞう）選手は跳馬（ちょうば）を跳ぶときにハチミツを使っているそうです。それは「すべらないようにするため」です。滑り止めとして使っている炭酸マグネシウム（白い粉）をなじませるために、白井選手ははちみつを使っています。ほかの選手は水や砂糖水、塩水などを混ぜ合わせるなどしています。競技でハチミツが使われていると知ったときはびっくりしました。（中1／K・A記者）

ハチと人間との共通点

私達がよく見かけるハチは西洋ミツバチという種類ですが、今回取材に行った総理大臣公邸にいたハチは日本ミツバチという種類です。西洋ミツバチは草むらにいて大きさは日本ミツバチに比べると大きく、黄色っぽい色をしていて寒さに弱いです。一方の日本ミツバチは森にいて小さく、黒っぽい色をしていて寒さに強い東洋ミツバチの仲間です。私は、人間と似ているなと思いました。人間も肌（はだ）の色がちがったり、あつがりだったり、さむがりだったりすると思うからです。同じ生き物だからハチと人間の共通点（きょうつうてん）があってもおかしくないと考えました。（小6／Y・O記者）

巣箱にたっぷりのハチミツ

ホワイトハウスでおもてなし

なぜ公邸のような所で始めたかというと、昭恵（あきえ）夫人がアメリカのホワイトハウスでもてなしを受けた際（さい）、庭でミツバチを飼っていたのを見て育て始めたそうです。そんな公邸は安倍総理など総理大臣が住むたてものです。そこでとれたはちみつは、総理や夫人も食べており、紅茶やパンなどに入れたり塗ったりできます。（小5／K・K記者）

公邸の歴史

昭恵（あきえ）夫人とこども記者

日本ミツバチの養蜂（ようほう）取材に安倍昭恵夫人に対応していただきました。多くのことを学ばせてもらいましたが、「二・二六事件のものと言われる跡（あと）が残っていた。」ということに驚（おどろ）きました。二・二六事件は1936年2月26日から29日にかけて青年の将校がクーデターを起こした事件です。ガラスの部分に一発だけ銃の弾の跡と言われるものが残っていました。また、青年将校がたき火をしたとされる跡も残っていました。とても昔の事件であるのにその跡がのこっていることに、その事件の大きさをしりました。首相公邸は昔からの歴史を刻んでいるのだと思いました。ハチミツの取材を通じて多くのことを学べました。（中1／K・A記者）

ガールズ部門優勝者に囲み取材を決行

千葉県ぼうそう市、千倉海岸にてサーフィン大会が3日間行なわれました。初日と2日目は悪い天候、小さい波などで思った結果が出ない選手もいたようですが、取材をした最終日は晴れていて、おおきな波も見られました。

サーフィンをする上で非常に必要なのが「波の判断力」です。サーフィンは、サーフボードという板にのって波にのり、技をきそうきょうぎです。波にのる優せんじゅん位があり、全ての波にのっていると大きな波をのがしてしまいます。（小5／K・S記者）

（小5／H・K記者撮影）

Q なぜ、サーフィンをつづけたのですか？（小5／S・K記者）

A 苦しいときもあったけど、大会へ出てよい成績をいただけることがうれしかったから。

Q はじめはどのような気持ちでしたか？（小5／S・K記者）

A ハイスコアを出したときは、「このまま勝てる」と思いました。オリンピックまでにもっとスキルをあげたいです。

Q 優勝したときに第一に思ったことは何ですか？（小5／H・K記者）

A この大会は大切な大会だったので、やはりうれしかったです。

Q 海は身近にあるものではないと思うのですが、どのように練習したのですか？（小5／A・H記者）

A ちがさきにすんでいて、ちがさきは海がちかかったので波があるときには毎日（海に）いっていました。

Q 負けてくやしい時にはどうするのですか？（小5／M・O記者）

A 負けたらその日はすぐくおちこんで、反省文などを書きます。

波を知りサーフィンをする

内海さんにインタビューをさせていただきました。

「10分や15分に1回とても大きい波がくる。これのことを『セット』という。プロのサーファーたちは、この『セット』をねらってライディングするんだ。つまり、波の動きを知っているサーファーが上手なのかな？ 気候をしってサーフィンは上手くなるんだ。」とおっしゃっていました。（小5／S・K記者）

Q サーフィンの放送で気をつけていることは何ですか？（小5／M・O記者）

A 場に応じて放送の時間をずらす。

Q 真冬でも練習できるんですか？（小5／H・K記者）

A します。最近はすごいウェットスーツがあるので（笑）と言っていました。

内海義彦（うつみよしひこ）さんにお話を聞きました

大会取材を終えて

私はサーフィンをやったことがないので、とても「やってみたい!!」と思いました。ガールズの松田選手もとても楽しそうにしていました。みなさんもぜひ、オリンピックのサーフィンを見て下さい。（小5／H・K記者）

サーフィンの特徴（とくちょう）はどんな海でも波があればできる所です。サーフィンは東京2020オリンピックの競技種目になっています。今回出場した選手の中にも、東京2020オリンピックに出場する選手がいるかもしれません。きたいします。（小5／K・S記者）

松田詩野（まつだしの）選手優勝おめでとうございます!!

波のはく力です。波が来たらサーフボードに一人のろうとするのですが、バランスをくずしてしまうことが多いので、波のおいこみがかっこいいです。（小5／M・O記者）

閉会式では、優勝した選手が表彰（ひょうしょう）されました。他の賞をもらった選手がみんなとてもがんばって、悔いのない大会になったようです。（小5／R・H記者）

東京2020大会では、サーフィンはオリンピックの追加競技として実施されます

JOC JUNIOR OLYMPIC CUP
26th JUNIOR OPEN
SURFING CHAMPIONSHIP 2018

6月17日にオリンピックに新しく入ったサーフィンのJOC（ジュニアオリンピックカップ）の取材に行きました。

日本サーフィン連盟主催サーフィン大会 in 千葉県千倉市（ちばけんちくらし）